

令和2年度日本福祉文化学会・中部東海ブロック第2回アンケート結果報告

第7期（平成30年度～令和2年度）日本福祉文化学会中部東海ブロック活動として、ブロック会員相互の連携を図り、それぞれの地域性を活かした福祉文化活動を共有し、「地方発福祉文化の創造の推進」を期待する目的で、この3年間の活動期間中に、2回アンケートを実施することとしました。

このたび実施しました、第2回目のアンケートは、ブロック会員30名に6月1日に、アンケートを発送し、8月31日までに5名の会員から回答（回収率16.7% 静岡県4名、愛知県1名）をいただきました。ここに、ご協力に感謝をし、回答内容の概要を報告します。

回答結果を、第8期（令和3年度～5年度）ブロック活動に活かすように、引き継いでまいります。なお、第1回ブロック会員アンケート結果は「学会福祉文化研究V○1.29」を参照して下さい。

令和2年9月1日

日本福祉文化学会 中部東海ブロック 理事 平田 厚
〒425-0041 静岡県焼津市石津 751-1
Tel./FAX:054-624-1924 携帯：090-4861-4547
Email: monogusa-tomy@theia.con.ne.jp

日本福祉文化学会 中部東海ブロック活動に関する第2回アンケート結果

1. 学会事務局より提供いただきました住所に連絡を致しました。今後の連絡先について、回答願います。また、「ブロック会員名簿の作成配布」について回答願います。
 - (1) 今後の連絡先：
 - ①「連絡先現状どおり」 5名
 - ②「変更します」 0名
 - (2) ブロック会員名簿の共有：
 - ①「希望する」 2名
 - ②「希望しない」 3名
2. 学会会員としての近況（活動状況）をお聞かせください。また、次回の通信への情報をお寄せ下さい。
 - (1) 学会入会28年経過。「地方発福祉文化の創造」をもとに、「静岡福祉文化を考える会」を結成以来、関係団体と25年間「協働」を基に微力ながら取り組んでいる
 - (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止対策の緊急事態宣言中、控えていた訪問や相談、認知症初期集中支援チームの再開など、業務多忙な日々が続く。今年度に入り、特に、虐待ケースの対応に追われている。新型コロナウイルス感染拡大防止対策への対応として、人々の外出や地域社会との関わりが、なお一層希薄化し、一人ひとりのストレス増大や虐待につながっていないかと懸念している
 - (3) コロナ禍において、難病の方々のコミュニティが開催できなくなったため、情報交換も兼ねて、「身体のセルフケア動画」を不定期に配信するようになった
 - (4) 日常的行動が、難しい状況の中、これまでの活動を整理し、新たな地域活動のあり方を話し合う機会が多くなった
 - (5) 地域社会では、諸行事が全て「中止」の状況の中で、定期的に取り組んでいる「居場所」の新たな取り組みのアイデアを関係者と議論する機会をもつ。実践事例として「手紙」で、コミュニケーションを取る努力をしている
 - (6) 若い世代世帯に対する「福祉問題」を民生委員や、介護事業所の協力をいただき、地域の集まる機会に、実践事例を基に学び合いの機会をもつ
 - (7) 自治会・町内会役員と共に、生活圏域の「現状把握」をし、「福祉問題」を少しでも、一人一人が関わられるような機会に努めている
 - (8) 専門性と市民性を「融合」する努力のもとで、住民の生活の場での研修企画に努めている

3. 令和2年度において、既に具体化している活動内容（研修会、講演会、現場セミナー…etc.）を学会会員に紹介できるものがありましたらお願いします。
 - (1) 知人が開催している「パーキンソン病コミュニティ」のオンライン活動
 - (2) 認知症初期集中支援チームの活動
 - (3) 認知症サポーター養成講座
 - (4) 認知症カフェの開所
 - (5) 認知症と共に生きている人々の集まり(本人ミーティング)
 - (6) 模索模擬訓練
 - (7) 障害者家族、とりわけ兄弟姉妹の会の取組み
 - (8) 動員型研修会から住民主体による講座の企画運営のプロセス
 - (9) 若者が捉えたご近所福祉を素材にした「ご近所福祉かるた」制作とその活用方法
 - (10) 当事者の視点から、福祉問題を学習化する「演劇療法」

4. 第8期（2021－2023）中部東海ブロック活動への期待と具体的な提案・ご意見をお願いします。
 - (1) 一般市民向け「福祉文化」啓発企画
 - (2) 厳しい社会情勢の中、地道に福祉文化実践活動に取り組んでいくこと
 - (3) これまでの活動を検証し、地域社会が求めている活動を積極的に展開していくこと
 - (4) 活動に必要な社会資源を開拓し、さまざまな領域との「協働」的取り組みに努める
 - (5) 地域社会が今求めている、身近な生活課題解決に向けた「生活支援」を取り上げる
 - (6) これまでのプロセスを検証する
 - (7) 社会資源の掘り起しと地域課題解決への実践的取組み
 - (8) 生活圏域における「調査研究活動」と、浮き彫りになった課題解決策を学習化する

5. 中部東海ブロック会員数は、全国のブロック規模では3番目に多い状況です。更なる拡大について、ご意見をお願いします。特に、「長野県」の会員がいません。具体的な働きかけについてご意見をお願いします。
 - (1) 長野県の会員呼び掛けに向けた「研修会」「講演会」の開催
 - (2) 長野県内の知人等に働きかけている
 - (3) 現在の会員一人一人が「学会の魅力」をもって、地域社会に向けて、地道に福祉文化活動への誘いに努める(広報啓発の強化)
 - (4) まずは、会員相互の信頼関係の構築による地域社会への積極的な働きかけ
 - (5) マスコミへの積極的な情報提供

6. 中部東海ブロックは、愛知、岐阜、三重、長野、静岡の4県で組織化されています。活動活性化について、具体的なご提案をお願いします。（7. ご自由にご意見を含む）
 - (1) 「ブロック大会」の継続的開催を実現の期待と、少人数でも関係づくりに努める
 - (2) 偏りのない、幅広い分野の福祉活動の許容する
 - (3) 現在、社会全体が活用している「オンライン」による連携の導入を具体化していく
 - (4) ブロック内5県のそれぞれの県単位で、会員相互の意見交換会の機会をもつ その内容を発信する
 - (5) 各県単位で、連絡調整係(仮称)を設けて、それぞれ、日常的な情報交換の機会をつくる
 - (6) 各県単位で、マスコミに積極的に情報提供をしながら「福祉文化活動」を市民化する努力をする
 - (7) 過去に試みた、学会全体の「ブロック活動の現状と課題」を役員会や、全国大会のプログラムに「ブロックを超えた情報交流の場」を設けて、共通した悩みをそれぞれの地域性を活かして改善できるかを論議する